

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 日本福祉大学                      2 大学名 日本福祉大学
- 3 研究組織名 スーパービジョン研究センター
- 4 プロジェクト所在地 名古屋市中区千代田 5-22-35 日本福祉大学名古屋キャンパス北館 7 階
- 5 研究プロジェクト名 ヒューマンケアにおける重層的スーパービジョンのシステム構築
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究
- 7 研究代表者
- | 研究代表者名 | 所属部局名                    | 職名          |
|--------|--------------------------|-------------|
| 田中千枝子  | 社会福祉学部<br>スーパービジョン研究センター | 教授<br>センター長 |
- 8 プロジェクト参加研究者数 34 名
- 9 該当審査区分 理工・情報      生物・医歯      ○ 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

| 研究者名     | 所属・職名                            | プロジェクトでの研究課題  | プロジェクトでの役割            |
|----------|----------------------------------|---|-----------------------|
| 田中 千枝子   | 日本福祉大学<br>教授                     | Aグループ:SVの理論・研究方法<br>①翻訳・文献研究から、SVの定義と理論の共通基盤を形成するとともに、仮説的に新たなSV概念を提示する<br>②SVのマイクロ・メゾにおける研究方法論を検討し提示する<br>③各領域、マイクロ・メゾレベルでの研究成果を集約し融合させ、全体をまとめる | 研究代表者・研究全体及びAグループ統括   |
| 石河 久美子   | 日本福祉大学<br>教授                     |   | 多文化ソーシャルワークにおけるSV理論研究 |
| 福山 和女    | 日本福祉大学<br>客員教授                   |   | ヒューマンケアにおけるSV理論研究     |
| 菱川 愛     | 東海大学准教授                          |   | 児童虐待SWのSV理論研究         |
| 浅野 正嗣    | 金城学院大学<br>教授                     |   | 保健・医療SWにおけるSVシステム研究   |
| 坂野 剛崇    | 関西国際大学<br>教授                     |   | Aグループ:質的研究によるSV手法の開発  |
| 塩満 卓     | 佛教大学講師                           |   | Aグループ:質的研究によるSV手法の開発  |
| 牛場(宮越)裕治 | 社会医療法人<br>居仁会<br>総合診療センターひなが PSW |   | Aグループ:質的研究によるSV手法の開発  |
| 永見 芳子    | 美作大学准教授                          |   | Aグループ:地域に展開する実習SVの研究  |

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

|        |                             |  |                              |
|--------|-----------------------------|--|------------------------------|
| 大谷 京子  | 日本福祉大学<br>教授                | Bグループ:ソーシャルワークのSV<br>①ソーシャルワーク領域におけるSVの理論検討(スクールSW/異文化SW等含む)<br>②質的調査によるソーシャルワークSVスキルの抽出と、量的調査による実態・課題の把握<br>③多職種連携を目指した、ヘテロ型SVのシステム構築にむけた検討 | Bグループリーダー・Bグループ統括            |
| 山口 みほ  | 日本福祉大学<br>准教授               |  | 保健ソーシャルワークからのSV理論研究          |
| 野尻 紀恵  | 日本福祉大学<br>教授                |  | スクールソーシャルワークにおけるSV           |
| 青木 聖久  | 日本福祉大学<br>教授                |  | PSWにおけるSV、ヘテロ型SVシステム検討       |
| 小松尾 京子 | 中部学院大学<br>講師                |  | Bグループ:ソーシャルワークのSV            |
| 神林 ミユキ | 日本福祉大学<br>助教                |  | Bグループ:ソーシャルワークのSV            |
| 横山 由香里 | 日本福祉大学<br>准教授               | B及びCグループ:スーパービジョンの効果研究   |                              |
| 野村 豊子  | 日本福祉大学<br>研究フェロー            | Cグループ:ソーシャルケアのSV<br>①ソーシャルケア領域におけるSVの理論検討<br>②認知症ケアにおけるSVの方法に関する質的調査研究<br>③都道府県・法人等を単位としたSVシステム普及の方法と効果に関する検討                                | Cグループリーダー・Cグループ統括            |
| 北村 育子  | 日本福祉大学<br>教授                |  | 高齢者ケアにおけるSVの方法に関する調査研究       |
| 来島 修志  | 日本福祉大学<br>助教                |  | 認知症ケアにおけるSVの方法に関する調査研究       |
| 水谷 なおみ | 日本福祉大学<br>教授                |  | 障害者ケアにおけるSVとシステム構築           |
| 鈴木 俊文  | 静岡県立短期<br>大学准教授             |  | 介護福祉領域のSVと組織・地域レベルのシステム研究    |
| 瀧澤 学   | 神奈川リハビリテー<br>ション病院 MSW      |  | 高次脳機能障害支援に関するSVと組織・地域のシステム研究 |
| 照井 孫久  | 石巻専修大学<br>教授                |  | Cグループ:被災地のリーダーケアマネジャーのSV研究   |
| 山口 友佑  | 認知症介護・研<br>修大府センター<br>研修指導員 |  | Cグループ:被災地のリーダーケアマネジャーのSV研究   |
| 汲田 千賀子 | 同朋大学講師                      |  | Cグループ:認知症ケアのSV研究             |
| 本間 萌   | 日本福祉大学<br>助教                |  | Cグループ:認知症ケアのSV研究             |
| 湯原 悦子  | 日本福祉大学<br>教授                | Dグループ:権利擁護支援のSV<br>①権利擁護領域におけるSVの理論検討<br>②権利擁護支援におけるジレンマの質的調査<br>③権利擁護システムにおける   | Dグループリーダー・Dグループ統括            |
| 平野 隆之  | 日本福祉大学<br>教授                |  | 地域福祉におけるSV、メゾレベルでのSV理論研究     |
| 金 圓景   | 筑紫女学園大<br>学講師               |  | 権利擁護支援のジレンマ調査、システム構築とSV関係の調査 |
| 上田 晴男  | 特定非営利法人                     |  | 権利擁護支援システムにお                 |

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

|           |                       |   |                                |
|-----------|-----------------------|---|--------------------------------|
|           | PASS ネット理事長           | ケース検討会の運営方法に関する調査   | けるケース検討会運営の調査                  |
| 小西 加保留    | 京都ノートルダム女子大学教授        | ④権利擁護版倫理要綱の作成とSVへの応用の検討   | ソーシャルワークとしての権利擁護支援とそのSVに関する検討  |
| 原田 正樹     | 日本福祉大学教授・副学長          | Eグループ:法人マネジメントのSV   | Eグループリーダー・Eグループ統括              |
| 奥田 佑子     | 日本福祉大学地域ケア研究推進センター研究員 | ①法人マネジメント領域におけるSVの理論検討<br>②法人マネジメントにおけるジレンマ調査<br>③法人マネジメントにおけるSVの文化醸成プロセスに関する調査 | 法人マネジメントにおけるジレンマ調査、文化醸成プロセスの調査 |
| 山内 哲也     | 社会福祉法人武蔵野会本部次長        | ④スーパーバイザー養成のモデル事業の実施  | 法人マネジメントにおけるジレンマ調査、文化醸成プロセスの調査 |
| (共同研究機関等) |                       |   |                                |

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧(減員)

| プロジェクトでの研究課題    | 所属・職名   | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割                |
|-----------------|---------|-------|---------------------------|
| Dグループ:権利擁護支援のSV | 國學院大學教授 | 佐藤 彰一 | 権利擁護支援のジレンマ調査、権利擁護版倫理要綱作成 |

(変更の時期:平成 29 年 5 月 31 日)



新(追加)

| 変更前の所属・職名 | 変更(就任)後の所属・職名        | 研究者氏名  | プロジェクトでの役割                  |
|-----------|----------------------|--------|-----------------------------|
|           | 日本福祉大学准教授            | 横山 由香里 | B 及び C グループ:スーパービジョンの効果研究   |
|           | 石巻専修大学教授             | 照井 孫久  | C グループ:被災地のリーダーケアマネジャーのSV研究 |
|           | 認知症介護・研修大府センター 研修指導員 | 山口 友佑  | C グループ:被災地のリーダーケアマネジャーのSV研究 |
|           | 同朋大学講師               | 汲田 千賀子 | C グループ:認知症ケアのSV研究           |
|           | 日本福祉大学助教             | 本間 萌   | C グループ:認知症ケアのSV研究           |
|           | 中部学院大学講師             | 小松尾 京子 | B グループ:ソーシャルワークのSV          |
|           | 日本福祉大学助教             | 神林 ミユキ | B グループ:ソーシャルワークのSV          |
|           | 関西国際大学教授             | 坂野 剛崇  | A グループ:質的研究によるSV手法の開発       |
|           | 佛教大学講師               | 塩満 卓   | A グループ:質的研究によるSV手法の開発       |

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

|  |                                   |              |                          |
|--|-----------------------------------|--------------|--------------------------|
|  | 社会医療法人 居仁会<br>総合診療センター ひなが<br>PSW | 牛場(宮越)<br>裕治 | Aグループ:質的研究<br>によるSV手法の開発 |
|  | 美作大学准教授                           | 永見 芳子        | Aグループ:地域に展<br>開する実習SVの研究 |

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

## 11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

社会問題の困難性や多面性が増すことにより福祉現場での支援者が困惑・疲弊している現状を踏まえ、本研究では支援人材養成と質を担保するスーパービジョン(以下SV)に着目する。支援の制度化・システム化が進む中で、新たなSVを ①ヒューマンケアに従事する支援者を包括化すること(包括性・目的1)、②直接支援のマイクロ局面のみならず、メゾ局面の研究までを含む重層的で持続的なシステム構築を視野にいれること(重層性・目的2)、③理論と実践との統合をめざしたSVの再定義、再理論化と「人材養成の支援者支援の方法論」への応用を進めること(統合性・目的3)を通して、職種・専門性・組織・制度等を超えた開放型の新たなSV文化を支援現場に醸成することに寄与する。

### (2) 研究組織

(1) 恒常的研究拠点として、日本福祉大学スーパービジョン研究センター(日本福祉大学名古屋キャンパス)を立ち上げ (2)5つの領域【A)理論基盤 B)ソーシャルワーク C)ソーシャルケア D)権利擁護支援 E)社会福祉法人マネジメント】の各研究グループにより分担し、統合させる(B)C)D)E)のマイクロ・メゾ領域の研究群をA)で集約・統合]。(3)学内外の研究者と各領域の実践者が参加し協働することで実践と研究との融合を目指し、さらに(4)既存の研究センター(権利擁護研究センターや地域ケア研究推進センター)間の連携を、各研究メンバーが研究会に参加することで確保し、コラボレーション研究として展開する。

### (3) 研究施設・設備等

スーパービジョン研究センターは日本福祉大学名古屋キャンパス北館7階にあり、その他の権利擁護センターや地域ケア研究推進センターと会議室や教室、研究・研修・会議に必要な設備・機材、研究支援の事務機能をシェアすることにより、機能的に仕事を進めている。

また研修プログラム開発・評価の一貫として研修用の教材作成についても、日本福祉大学 ICT サポートセンターの助力で円滑に実施がなされている。

### (4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

本プロジェクトでは、現状分野別領域別に行なわれているヒューマンケアの支援者支援の方法であるSVに対して、①ヒューマンケアとしての包括性 ②マイクロ・メゾ研究の重層性 ③理論と実践の統合性をキーワードに、(1)から(6)の柱で業績を分析する。

#### ① ヒューマンケアとしての包括性

(1)ヒューマンケアを担う支援者の範囲の広がりや多様さに留意し、(2)SV関係がホモ型・ヘテロ型の組み合わせから、多職種連携、当事者や地域住民などによる非専門職である支援者など、従来の徒弟的専門職養成を超えた第三局面へと展開している状況を把握しその課題を分析した。

#### ②マイクロレベルからメゾレベルに展開する研究の重層性

(3)各領域の支援者への直接支援場面のスキルやアセスメント、理論的・倫理的課題などのマイクロレベル研究から、(4)持続可能なSV体制構築にいたるメゾレベル研究について重層性をもって研究を包括した。

#### ③理論と実践の統合性

(5)理論研究と実践研究の相互作用性と到達度を踏まえ、研修プログラムを産出しその実施及び評価を行なった。(6)A.Kadushin の SV 理論と日本の実際を踏まえ、『福祉・介護の支援人材養成・開発論』を著し、支援者支援の方法としてのSVの再定義、再理論化を提起した。またその考え方や体制づくりを各専門職や当事者団体とともに行ない、開放型SV文化の土壌を育成することに寄与した。

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

### 【①ヒューマンケアとしての包括性】

(1)ヒューマンケアを担う支援者の範囲の広さ・多様さについては、被災地の生活を支える市民支援者(\*図書 28)や重度心身障害者など言語以外の感覚的コミュニケーションを重用する介護支援者(\*論文 37)、認知症高齢者に対して回想法という手法を通じて支援を行なう多様な専門性を持つ支援者(\*論文 39)、行政等の外部スーパーバイザーが施設へ向かうことでデリバリーSVを受ける施設の生活支援者(\*図書 14)、認知症ケアリーダー(\*論文 4) 成年後見制度等の法的背景や枠組みを持ち、意思決定支援を目指す権利擁護支援者(\*図書 3)、高次脳機能障がい者に対する長期にわたる地域支援者(\*論文 12)などを対象として研究を進めた。結果、従来にはなかった立場、制度・環境にもとづき、新たな支援内容を必要とされている支援者像が明確になった(\*論文 16)。またその業務負担は大きく、支援者支援としてSVを大いに必要としていた。これらの調査の多くは研修を通じて行われ、各支援者集団や団体にSVの考え方や手法が伝わるよい機会となった。

専門職養成における学生に対する実習SVについても、SVの効果や体制評価について実証的に現場の実習指導のバイザーである実践者と協働し分析した(\*論文 8\*論文 10)。さらに支援者の幅広さを包括したSV機能の重要なスキルとして、実践の自らの振り返り(リフレクション)があることを指摘した(論文 9)。そのスキルは質的研究法による言語収集・分析と類似点が多く、いわばSV機能を発揮しており、それらを援用できることから、質的研究法のインタビュー方法や名づけに關してのスキル訓練教材として教育 DVD 作成の根拠となった>(\*文献 5、\*文献 11、\*文献 22 (\*14 その他 の研究成果等「2.DVD 教材の作成-4」))。

またスーパービジョン機能である振り返りと言語化の実践は、当事者が自分の非行を振り返るナラティブとそれを聴いて学ぶ支援者の学び活動に関するアクションリサーチ研究となった。それは支援者と当事者の相互作用に關してSV機能を発揮した良循環の研究であった(\*図書 7、\*図書 15)。

(2)支援者支援の關係性には支援者が「自己の実践を自ら振り返る」「振り返った内容を仲間や指導者と共有し」「各々が理解するためのやり取りを経て」「支援者自身が納得し、エンパワメントされる」過程を踏むという、「自らの実践の省察」「仲間や上司との相互作用」という枠組みと、「社会に対するよい支援の保証と自分の納得」という目的を内蔵したSVの形を呈していた。この關係性は、専門性から見てホモ型なのか、ヘテロ型なのかで生じる諸問題は従来から論じられていた。それがいまや多職種連携チーム内のSVとしてコンサルテーションの考え方の問題や、当事者や市民・隣人など非専門職が支援者として入り、ある意味専門性を軸としない第三局面のSVのあり方(\*論文 6、\*論文 17、\*図書 13)に關するものへと展開している現状とそれらの課題を分析した。結果基礎的共通性に基づくSVの必要性がさらに明確になったと考える。

またソーシャルケアの領域では、新たな支援職におけるバイザー、バイザー、職場、地域の立場ごとのSVの認識や課題を量的質的に明らかにした(\*論文 20\*論文 12)。また英国のソーシャルケアにおけるSV理論の柱として Morrison と Wonnacott の論稿を中心に文献を探索し検討を行った(\*図書 21)。

また A.Kadushin は米国SVの先駆的研究者であり、その後 70 年間現在に至るまで第一人者として様々な研究成果をあげている(\*図書 12)。とくに彼の唱えたSVが発揮する3機能(管理的・教育的・支持的機能)は有名であり、日本では今でもそれを分析軸にしている研究は多い。Kadushin はSV關係に対しては、ヘテロ型や非専門職のSVも包含して考えており、新たな第三局面のSVにおいても管理的機能だけではなく、教育的機能も支持的機能も発揮できる可能性を示している。また、このことからバイザー・バイザー關係の再定義を考える上で、コンサルテーションを含めて、SVとは単なる職場での指導監督の上下關係だけではなく、部門や組織内及びそれを越えた仲間・同僚として水平的にも影響

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

し、SV 関係を広げていくSV体制・組織の範囲拡大や展開の可能性もわかった(\* 図書2 \* 論文 50)。

### 【②マイクロレベルからメゾレベルに展開する研究の重層性】

ソーシャルワークのSVにおいて、日本ではとくに支援者支援に直接結び付く支持的機能を大切にすることが多い。離職や燃え尽きなどの労働条件や環境との関係を意識しながら、人材養成を考えていくことが強調される。そこで現代のヒューマンケアのSVを考えるうえでは、「人と環境」や「システム間の相互作用」の視点で研究を行う、ソーシャルワークの枠組みをとることが重要と考えた。A.Kadushin のSV理論は、そうした視点をもとに形成されている。そこでまずこれをセンター事業としてメンバーを募って翻訳し、その考え方について翻訳グループ内及び全体会において討論した。こうしてAからEに渡る班を超えて学び共有することで、各領域の調査設計や研究に生かすようにした。そしてそれをセミナーや研修等によってセンター内外、研究と実践の相互作用の中で認識を共有した(\* 研究成果の公開状況1~3セミナー開催)。

そのうえでAの基礎理論班では、Kadushinの理論を下敷きに、支援者支援を核とする日本福祉大学版SVとして、その構造を明確にした。KadushinはSVの専門性の構造を、マイクロレベルのバイジー=バイザー関係の相互作用から、その関係を組織からコミュニティまで7重にシステムとして相互作用を起こすSV体制として描いた。日本福祉大版SVでは、これをより実践に沿う形で、支援者支援を核に、SV体制として組織及び社会に対して専門性を保証する仕組みとして描いている(\* 図書2)。

(3)マイクロレベルのSV研究ではSVにおける省察の内容について、1)倫理的姿勢を確認・論証すること2)理論的枠組みを押さえることとの2つの重要性が、日本社会福祉士認定機構による、認定社会福祉士の教育研修プログラムにより示されていることが分かった(\* 図書4、\* 図書 20、\* 図書 21、\* 図書 22)。

1)倫理的姿勢を押さえていることについては、実際のSV事例によって、違和感やジレンマとしてバイジーが感じているか否か、そしてその感覚がバイザーによってSV場面でどのように扱われているかを検証した(\* 図書8)それはまずクライアントとの出会い場面で「医療スタッフに言われていたのと異なる感じ」から発したバイジーの違和感を、SVにおいて言語化することから省察が始まることが分かった。

2)SVの理論的根拠を求めていく研究では、ベテランワーカーによるSV場面のアセスメントとその際のスキルを「語り」から抽出した(\* 論文 42)。バイザーはバイジーの成長状況のアセスメントをもとに、適切な時期を待って、気づきの介入を行なうか否か判断をする、認知行動療法的アプローチを採用していることが分かった。

また人-環境交互作用理論に基づいて、SVにおける、話し合いのやり取りが行なわれていることを、FKグリッドを用いて視覚的に検証する研究(\* 論文 10)では、交互作用としてダイナミックに人と環境のマイクロ・メゾ・マクロレベルを行き来し関心の焦点が広がっている効果を視覚化した。

こうしたSVには理論的背景や根拠をアセスメントに生かす能力が要求されていることから、愛知県医療ソーシャルワーカー協会との共同で理論的視点を事例に生かす教材開発を行った。協会の面接技術の研修において使用する家族事例を共同で作成し、そのシナリオを経てロールプレイによる面接場面の撮影を行った。研修ではシステム論の講義を行い、その後作成事例のDVDを使用し、システム論で事態を解析するグループワークを行なった。そしてその研修の評価を受講生へのアンケートをもとにプロジェクトチームにおいて評価を実施した(\* 14 その他の研究成果等「2.DVD教材の作成-1」2)。

最後にBのソーシャルワーク班としては、SVセッションで使われているスキルの解明及びそのスキル

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

発揮の自己チェックシート、及び評価指標を作成した。スーパーバイザーがSVを行う場合のチェックシートと評価指標を開発したことは、実践現場で有効なツール開発となった(\* 図書1、\* 図書2)。

(4) メゾレベルのSV体制の構築を目指した研究は、組織内と組織外との展開に分類できる。まず組織内のSV体制では、Kadushin が唱えるように部署内の上司-スタッフの関係性をもって職場づくりを進める方向性がある。近年介護保険におけるケアマネジメント領域では、職場におけるバイザーとしての主任相談員が制度化され、そこにSV関係を求める枠組みができてきた。しかし一方で人事評価や組織的パワーに関わり職場上司がバイザーとなることは、スタッフであるバイザーの専門的自律性を損なうと弊害を唱える研究もある。

そこで人事考査のシステムを含みながら、法人レベルで組織内SV体制をひき、システムを構築している法人事例を分析した(\*論文 50)。その社会福祉法人では、法人全体を新人職員から法人トップまでの上下及び水平関係のグループにして、その組み合わせでSV体制をつくっていた。その基盤となるのは、法人の「汝の隣人を愛せよ」という理念であった。その理念経営という視点で上司と部下とで「実践」を振り返りお互い省察を得る。またそれを上司どうし、部下どうしの同位職仲間の集団でも各自が振り返り、あらたな見方を得る。そしてまた経営トップが自分の過去や現在の実践を、新人集団や中堅者集団に向けて振り返りつつ語りあう機会を設けるなど、実践の振り返り体験を介したSV構造をもって法人を組織化し経営していることが分かった。さらに実践を振り返る省察の内容が、「隣人を愛する」という法人理念に照らしていることは、SVが倫理的姿勢を問うことでも合致していた(\* 図書2)。

またソーシャルワーク班では、組織外SV体制の構築例として、H地区SV研究会の集団が、お互いバイザーやバイザーとして成長することを目標に、SVシステムづくりに必要な要素を明らかにした>(\*論文 32)。ここでは職場の上司と部下(縦=上下関係)によるSVの内容を、地域に集まる上司同士のグループ、部下同士のグループ(横=水平関係)において振り返り検討されていた。職場でのSV事例を、お互いがバイザーとなってグループで検討する関係と地域の仲間内のバイザー層、バイザー層の各グループのSVの振り返り検討会を重層的に組み合わせていた。また新規のバイザーグループを、時期をずらして定期的にこの循環システムに組み入れることで、バイザーがバイザーになっていく過程を良循環的に支えるといった持続的システム構築を描いていた(\*図書1)。

### 【③理論と実践の統合性】

(5) 学内外の研究者と専門職団体や集団等との相互作用によって、理論研究と実践研究の相互作用の成果を生んだ。それは新たなSVの方法論を定着させるように研修プログラムの産出に結実する。新たなSVの重要な要素であり、プログラム開発につながるものは、

- 1) 支援者の性質が専門職から幅広い非専門職・准専門職・当事者同士のセルフヘルプにも広がっていることにより、SVは教育的指導だけでなく、省察として自ら分かっていく過程を出現させるスーパービジョン機能の発揮ともいえるべき方法論をとることがよいとすべきこと。
- 2) SVを閉鎖的な徒弟制度をモデルに持つミクロの上下の関係では終わらせず、同僚や地域の仲間などのメゾ集団による同位の水平的な関係を組み合わせることが、SVの省察の深まりにとって効果的であることから、グループを扱うための枠組みや知識・技術を含めてプログラム開発をするべきこと。
- 3) 理論と実践を統合するには、理論を形にして実践で評価確認し、結果によって形を変えてさらに修正していく相互性に富むプログラム開発をすべきであり、より円滑に修正・再開発をするために具体的な形としての教材開発を行なうべきことがわかってきた。

① SV機能の発揮 については、非行から回復した当事者が、自らの非行体験を振り返り、それを支援者に語るような再非行防止プログラムを実施することで、当事者自らがセルフヘルプによってエン



|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

パワメントし、支援者はそれを傾聴し理解することで相互作用を起こす。そうした振り返りは当事者が支援者として参加する新しいSVの意味につながる。当事者の語りを中心とした研修プログラムを支援者に対し企画し実施することで、支援者側の変容につながったという報告を得た。(\*図書 8)

② 垂直と同時に水平的SV関係を持つことについては、地域ケアシステム下での多職種・多機関による地域調整会議や地域ケア会議を多く開催することが必要とされている。その機会をグループSVとして実施するための研修を「ケア会議をスーパービジョンで行なう」としてプログラム開発及び各地での研修を行なった。ここでは Kadushin がグループSVを扱う場合、バイザー以外のメンバーをバイザー役ではなく、メンバー自身の実践を振り返るバイザーの立場をとって参加させるという指摘に刺激を受けた。そうした知見を得て、ケア会議を単なる事例提供者を囲む検討会ではなく、SVとして実施するための枠組みを体験するプログラムを開発した。その際グループメンバーがバイザー体験を共有できるような司会・リーダーシップの発揮について、実践上明確化した(\*14.その他の研究成果等―「4. 研修会 5」)。

③ SVは実践理論の枠組みで押さえる必要があるということから、実践理論について、SVの場で実践を通して上司であるバイザーがバイザーに説明できるようにすることを目的に、実践者と研究者とのコラボレーション研究として研修プログラム開発を行なった。プログラムでは研究者が特定の実践理論を教授した後、実践者が現場で生じる事態について、シナリオ作成とロールプレイ撮影に参加したビデオ教材を作成し映す。そして研修受講生がそのビデオ事例を、学んだ実践理論によって解説できるようにグループディスカッションを行ない、研究者がその成果を評価・解説するという研修プログラムを作成した。そこでは、参加者の評価をそのつど行っており、難しいことを実践の事例を使いながら分かりやすく理解できたという評価を多く得ている。(\*14.その他の研究成果等―「2.DVD 教材の作成」)。

(6)Kadushinの理論枠組み及び各領域による研究成果をもとに、新しい支援者支援としてのSVの再定義、新たな支援に対する理論化を行いつつある。

1)Kadushin の翻訳において3機能の1つである administrative を、従来の定訳であった組織から人への一方向の“管理的機能”から、システム論にもとづき社会・地域・組織と人との間での専門性の担保の相互作用として“運営管理機能”と訳し変えた(\*図書 12)。

2)SVの再定義に向けた『福祉介護の支援人材養成・開発論』(\*図書 13)において、日本ではとくに組織の枠組みを用いることが有効であることを踏まえて、SVで組織環境や風土を扱うことの重要性を強調した。SVを実習生・新人・新任ベテラン対象に分け、スーパービジョンを中心に、管理的機能をマネジメントと、また教育的機能をプログラミングに置き換えて、バイザーへの直接介入(マイクロレベル)のみならず、地域・組織への環境の影響と介入(メゾレベル)を強調し記述した。さらに専門性の担保として価値に基づく実践であることを確認する必要についてはその原則を、人の尊厳・自律性・リーダーシップとして強調した。

3)SVを体制整備に伴う重層化としてとらえ、徒弟的マイクロ実践をメゾレベルに上げる鍵は、部署及びそのスタッフによるグループの力動を使った相互作用と、経時的・積み上げ方式及び予測的な評価とにあるという Kadushin の主張を理解した。そのうえで、法人経営まで視野に入れたSV実践体系を設定した(\*図書2)。

4)新たな局面を迎えた支援者支援としての多様なSVを理論化するにあたり、研究のフレームワークをソーシャルワークに置いた。そして日本の文化と実践現場の実情に根差したSVを定着化させるための研究を、そのSV実際の実態から帰納法的アプローチをとって行った。SVセッションでスーパーバイザーが使用しているスキルに焦点付け、その解明に向けSVプロセスを解析し、振り返りシートを作り、質の向上を目指したスキル評価指標を開発した。またこのSVシステムが回るためのバイザー間のサポー

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

ト形成と成長の仕組みを解析した(\* 図書2)。

5)「専門職であるバイザーがバイザーの助けを借りて、自らの実践を振り返り、語り表現することで自らが分かっていること」が支援者支援であるスーパービジョンの中核であるとするならば、それはいろいろなヒューマンケアの実践や研究の場面で出現している「スーパービジョン機能」の発揮というべき現象ではないかということを経験会で話し合った。そのスーパービジョン機能を意識して発揮する訓練に、質的研究法のインタビューから名づけの作業が適切と考え、質的研究法の実施に向かうDVDを教材開発した。今後は「スーパービジョン機能」の一般化・普遍化につながる研究が必要である。

6) 4)5)を踏まえ、さらなるヒューマンケアとしてのSV理論化については、支援者支援サービスとしてのSVをa)ストラクチャー b)プロセス c)アウトカム の軸で、多様な領域のSVを分析し、統合化し、理論化に至るプロセスをさらに進めることにした。

以上 日本福祉大学 SV 研究センターは研究拠点形成事業における役割を全うし、さらなるSV研究センターとしての基盤整備及び研究活動の充実をはかり、日本のSVの理論形成及び支援者支援の方法論の評価・開発、具体的な支援プログラムや教材の開発等、実践と理論の融合を目指す実践研究センターとしての役割を果たしていく。

#### <優れた成果が上がった点>

多様になった対人支援職に今求められている、効果的な支援者支援の方法論としてのSVの具体的なイメージが明らかになることに貢献できた。領域ごとに実践現場・専門職団体の方たちとSVの具体的方法論を提示・検証する形で、研修会テーマ設定、研究会プログラム・教材開発等、研修評価等を行うことで掲示できた。

SVをバイザー＝バイザー間の徒弟的な閉ざされた関係性から、専門性を担保するメゾレベルの環境としてのシステムを入れ込んで、SV体制として考えていく考え方を広めることができた。そのメゾレベルの法人経営や当事者へのエンパワメントアプローチにもSV機能の発揮や効果として示すことができた。

#### <課題となった点>

対人支援の多様な領域におけるSVの開拓及び定着を目指し、ソーシャルケアまでは見通すことができた。しかしさらに非専門職、当事者、また臨床心理の古くて新しい課題をもつヒューマンケアの領域まで広げて包括的に研究することが次の課題となった。また各領域におけるSVの実態をさらに把握するとともに、現代のSVの再理論化及び支援力強化に向けて、日本の多様な実態把握からあるべき姿を求める研究に展開することが求められる。

#### <自己評価の実施結果と対応状況>

日本福祉大学では年度ごとに重点研究の各センター報告を行っている。そのたびに研究の自己評価及び指摘に対する対応を行っている。さらに学内教員の研究参加に対する促進を行っている。

#### <外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

該当なし

#### <研究期間終了後の展望>

平成 30 年度より文部科学省科学研究費補助金(基盤B)が4年間認可されたことにより、日本福祉大学スーパービジョン研究センターの研究基盤形成の定着及び継続が叶っている。さらに今後もソーシャルワークを中心にSV研究の展開を実施し、包括的ヒューマンケアのSVに関する再定義及び理論化、及び現場とともに築くSV文化の醸成を最終目的にして、システムの体系化に向け、重層的研究を継続して行う。

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

＜研究成果の副次的効果＞

理論と実践の良循環による研究効果を目的としたことから、各専門職団体や当事者団体との協働研究が進み、その研究・研修システムや研修プログラムを他団体に求められるようになってきた。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 人材養成・開発                      (2) ヒューマンケア                      (3) ソーシャルワーク  
 (4) ソーシャルケア                      (5) 権利擁護                              (6) スーパービジョンシステム  
 (7) 包括性                                      (8) 重層性

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

＜雑誌論文・文献＞

1. 大谷京子「2018年度学会回顧と展望 原理論・方法論部門」『社会福祉学』134号 pp.103-107 2019年
2. 田中千枝子「2017年度学会回顧と展望 保健医療部門」『社会福祉学』127号 pp.216-234 2018年
3. 汲田千賀子、野口典子「高齢者施設におけるユニットリーダーの職務と求められる能力」『現代社会学部紀要(中京大学)12(1), pp.25-40, 2018年
4. \*汲田千賀子、野口典子「認知症ケアにおける複層的スーパービジョンの必要性：スーパーバイザーを支援する取り組み例から」『同朋大学論叢』25, pp.35-46, 2018年
5. \*鈴木俊文「実務に伴う「実践感覚」を経験した介護福祉士の能力開発のプロセスと構造」日本福祉大学大学院『福祉社会開発研究』第13号, pp.51-60, 2018年3月
6. \*田中千枝子「2016年度学会回顧と展望 保健医療部門」『社会福祉学』58(3), pp.164-179, 2017年
7. 野村豊子「ソーシャルワーク・スーパービジョンとは何か」『保健の科学』59(12), pp.798-803, 2017年
8. \*尾方欣也、福山和女、田中千枝子「実習スーパービジョンの効果と教育的アセスメントの関連性～教育的および支持的機能に焦点をあてて～」公益社団法人日本医療社会福祉協会『医療と福祉』51(1), pp.25-34, 2017年8月
9. \*神林ミユキ「スーパービジョン・セッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキルーソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査ー」『社会福祉学』58(1), pp.71-85, 2017年5月
10. \*佐原直之、福山和女、田中千枝子「FKグリッドによる実習スーパービジョンのプロセスにみる実践的効果に関する研究」日本福祉大学大学院『福祉社会開発研究』第12号, pp.51-62, 2017年3月
11. \*塩満卓「相談支援専門員の利用者に対する14の援助者役割とその獲得機序(第二報)ー知的障害者領域における相談支援専門員の円熟期を中心にー」日本福祉大学大学院『福祉社会開発研究』第12号, pp.51-61, 2017年3月
12. \*瀧澤学「高次機能障害者の長期支援に関する研究」『医療社会福祉研究』第25巻, 2017年
13. 汲田千賀子「認知症ケア現場のリーダーに対する継続的スーパービジョン」『同朋福祉』23, pp.111-130, 2017年
14. 高坂朝人、湯原悦子「NPO法人 再非行防止サポートセンター愛知の活動紹介：再非行を減ら

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

- し、笑顔を増やしたい』『更生保護学研究』,第 8 号,pp12-20,2016 年
15. 野尻紀恵・川島ゆり子「貧困の中に育つ子どもを支える連携支援プロセスの視覚化—SSW と CSW の学び合いプロセスを中心として—」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』第 26 号,pp.15-26,2016 年 7 月
  16. \*田中千枝子「生活困窮者への健康支援とその課題」鉄道弘済会『社会福祉研究』第 125 号, pp.53-62,2016 年
  17. \*福山和女・石田賢哉「介護老人福祉施設におけるスーパービジョンの意識化」『ルーテル学院研究紀要』49 号, pp.1-11,2016 年
  18. 浅野正嗣、山口みほ「保健・医療領域のソーシャルワーク・スーパービジョンの現状—スーパービジョン講座受講者の調査から」公益社団法人日本医療社会福祉協会『医療と福祉』No99 Vol.49-2,pp.64-73,(査読有),2016 年 3 月
  19. 平野隆之「地域福祉と地域ケア」『日本の地域福祉』第 29 巻,pp.3-12,2016 年 3 月
  - 20.照井孫久「ケアリスクマネジメントの前提としてのリスク概念の考察」『石巻専修大学研究紀要』27 号,pp.49-55,2016 年 3 月
  21. 塩満卓「相談支援専門員の利用者に対する 14 の援助者役割とその獲得機序(第1報)—知的障害者領域における 6 名のベテラン相談員支援専門員へのインタビューから」『福祉教育開発センター紀要』第 13 巻 2016 年
  22. \*坂野剛崇「社会面接における新人セラピストの役割遂行に関する一考察—3名の語りに対する質的記述的研究による分析から—」『関西国際大学心理臨床センター紀要』第 9 巻、2016 年
  23. Yukari,Yokoyama “Relationships between social factors and physical activity among elderly survivors of the Great East Japan earthquake: across-sectional study” Bio Med Central,2016.1
  24. 金圓景「介護からケアへ:ソーシャルワーカーによる認知症ケア」『筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学部紀要』11 号,pp.141-151,2016 年
  25. Yukari,Yokoyama “Application of the eight-item modified medical outcomes study social support survey in Japan: a national representative cross-sectional study” Quality of Life Research, springer, 2015 年
  26. 湯原悦子、小島佳子、高柳雅仁「地域における権利擁護支援ニーズの内容と支援の効果—法人後見の受任事例からの考察—」『日本福祉大学社会福祉論集』第 133 号,pp.29-46,2015 年
  27. 北村育子・永田千鶴「地域包括支援センターによる認知症高齢者の在宅生活継続支援:専門職間の連携に着目して」『日本福祉大学社会福祉論集』第 133 号,pp.1-16,2015 年
  - 28.青木聖久「障害年金における受給継続と就労との関係—精神障害を有する本人と家族からのアンケート調査を通して—」『日本福祉大学社会福祉論集』第 133 号,pp.47-73,2015 年
  29. 福山和女「超高齢化社会と家族支援」『家族療法研究抄録集』第 32 巻 2 号,pp.94-96,2015 年  
永田千鶴・松本佳代・北村育子(他)「認知症疾患医療センターが担う在宅支援:独自の支援と地域包括支援センターとの連携による支援内容の分析」山口大学医学会『山口医学』3 号,pp.183-190,2015 年
  30. 永田千鶴・松本佳代・北村育子「認知症疾患医療センターが担う在宅支援:独自の支援と地域包括支援センターとの連携による支援内容の分析」山口大学医学会『山口医学』第 64 巻 3 号 pp.183-190 2015 年
  31. 大谷京子「アセスメント面接に対するクライアント評価の探求—面接ロールプレイ分析—」『精神保健福祉学』3(1),pp.35-48,2015 年
  32. \*山口みほ、前田美都里、嶋田和寛、野田智子「愛知県下の MSW 管理職による管理業務の現状と課題—管理業務研修のグループ・セッションの分析から—」愛知県医療ソーシャルワーカー協会

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

『医療ソーシャルワーク』64 巻 103 号,pp.70-78,2015 年

33. 水谷なおみ「障害者就業・生活支援センターの機能類型に関する研究ー運営主体の事業特性とのかかわりからー」『日本介護福祉学会:介護福祉学』Vol.22 No.1,pp.15-26,2015 年

34. 照井孫久「ケアのリスクマネジメントにおける方法論の研究」『石巻専修大学研究紀要』26 号, pp.37-45,2015 年

35. 奥田佑子、平野隆之、金圓景「地域における権利擁護支援システムの要素と形成プロセス」『日本の地域福祉』第 28 巻,pp.1-13,(査読有),2015 年

36. 青木聖久「精神障害者の障害年金における認定審査の現状と課題ー障害年金に精通した 3 名の社会保険労務士の語りを通してー」『日本福祉大学社会福祉論集』第 132 号,pp.1-20,2015 年

37. \*鈴木俊文「介護職員の「経験や勘に基づく実践」の分析ー「嫌がる感じ」という「だいたいの目安」ー」『日本認知症ケア学会誌』Vol.13-4,pp.781-789,(査読有),2015 年

38. 金圓景、奥田佑子「認知症高齢者グループホーム管理者の主な業務内容および抱える困難」『日本認知症ケア学会誌』Vol.13-4,pp.739-748,(査読有),2015 年

39. \*来島修志「事例検討会の進め方と意義」『認知症ケア事例ジャーナル』7 巻 3 号,pp.311-316,2014 年

40. 福山和女「2013 年度学界回顧と展望ーソーシャルワーク部門」『社会福祉学』第 55 巻 3 号, pp.142-156,(査読有),2014 年

41. 福山和女「新しいタイプの協働における夫婦・親子の尊厳についてー遷延性意識障害患者へのソーシャルワーク」『精神療法』第 40 巻 5 号,pp.702-703,(査読有),2014 年 10 月

42. \*大谷京子「ソーシャルワークアセスメントスキルー面接ロールプレイを用いた質的分析ー」『ソーシャルワーク研究』40(3),pp.48-57,2014 年

43. 金圓景「地域包括ケアシステムの構築背景と推進方向」『韓国長期療養学会(韓国)』2,pp.5-32,(査読有),2014 年

44. 野尻紀恵「福祉教育の当事者としての子どもー子どもの生活課題を視野にいれてー」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』第 23 号,pp.16-26,2014 年

45. 石河久美子「在住外国人の現状と支援の課題ー多文化ソーシャルワークの普及に向けて」鉄道弘済会『社会福祉研究』第 120 号,pp.54-61,(査読有),2014 年

46. 永田千鶴、北村育子「地域包括ケア体制下でエイジング・イン・プレイスを果たす地域密着型サービスの機能と課題」日本地域看護学会『日本地域看護学会誌』Vol.17 No.1,pp.23-31,2014 年

47. 金圓景「認知症家族の自殺及び殺人事件に関する新聞記事分析」『保健社会研究(韓国)』34-2,pp.219-246,(査読有),2014 年

48. 小松尾京子「主任介護支援専門員のスーパービジョン実践に関する研究ー成長の要因と実践方法ー」『ソーシャルワーク学会誌』第 28 号,pp.1-11,(査読有),2014 年 6 月

49. 大谷京子「ソーシャルワークにおけるアセスメントー態度とスキルー」『日本福祉大学社会福祉論集』130 号,pp.15-29,2014 年

50. \*田中千枝子、原田正樹「社会福祉法人等における新規事業開発(法人マネジメント)ー社会貢献の視点から考える」『第 8 回提携社会福祉法人サミット報告集 2014』日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター,pp.119-140,2014 年

51. 福山和女「精神療法の未来ーソーシャルワークの立場から」『精神療法』第 40 巻 1 号,pp.106-107,2014 年

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

## &lt;図書&gt;

1. \* 日本福祉大学スーパービジョン研究センター監修 大谷京子、神林ミユキ、小松尾京子、山口みほ 『スーパービジョンの進め方』 ミネルヴァ書房、総頁数 218p、2019 年7月出版予定
2. \* 日本福祉大学スーパービジョン研究センター 田中千枝子 編 『日本福祉大学スーパービジョンセンター最終報告書』 日本福祉大学、2019 年
3. \* 日本福祉大学権利擁護研究センター監修 平野隆之、田中千枝子 他編「権利擁護がわかる意思決定支援:法と福祉の協働」中央法規出版、総頁数 176p、2018 年
4. \* 田中千枝子「スーパーバイザーの養成教育」『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン:支援の質を高める手法の理論と実際』ミネルヴァ書房、2018 年
5. 福山和女、渡部律子『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン:支援の質を高める手法の理論と実際』ミネルヴァ書房、総頁数 392p、2018 年
6. 大谷京子、田中和彦「失敗ポイントから学ぶ PSW のソーシャルワークアセスメントスキル」中央法規出版、総頁数 139p、2018 年
7. 湯原悦子、再非行防止サポートセンター愛知「再非行防止社会内サポート CCNC study club 報告書 2017」再非行防止サポートセンター愛知&日本福祉大学スーパービジョン研究センター、総頁数 101p、2018 年
8. \* 小西加保留、田中千枝子他「HIV/AIDS ソーシャルワークー実践と理論への展望ー」中央法規出版、総頁数 346p、2017 年
9. 救急認定ソーシャルワーカー認定機構監修:小西加保留 他「救急患者支援ー地域につなぐソーシャルワークー救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト」へるす出版、総頁数 310p、2017 年
10. 日本医療社会福祉協会・日本社会福祉士会編集:田中千枝子、小西加保留 他「保健医療ソーシャルワーク実践:アドバンス実践のために」中央法規出版、総頁数 375p、2017 年 6 月
11. \* 湯原悦子、再非行防止サポートセンター愛知「再非行防止社会内サポート CCNC study club 報告書 2016」再非行防止サポートセンター愛知&日本福祉大学スーパービジョン研究センター、総頁数 101p、2017 年 4 月
12. \* 福山和女監訳、田中千枝子責任編集 『ソーシャルワーク・スーパービジョン 第5版』A.カデューシン&D.ハークネス著、日本福祉大学スーパービジョン研究センター発行、中央法規出版、総頁数 659p、2016 年 11 月
- 13\* 福山和女、田中千枝子責任編集 『福祉・介護の支援人材養成・開発論ー尊厳・自律・リーダーシップの原則ー』勁草書房、総頁数 245p、2016 年 8 月
14. \* 汲田千賀子 『認知症ケアのデリバリースーパービジョンーデンマークにおける導入と展開から』中央法規出版、総頁数 246p、2016 年 6 月
- 15.\* 湯原悦子、再非行防止サポートセンター愛知『再非行防止社会内サポート CCNC studyclub 報告書 2015』再非行防止サポートセンター愛知&日本福祉大学スーパービジョン研究センター、総頁数 520p、2016 年 2 月
16. 佐藤彰一「日本の成年後見制度の現状と変革の方向ー意思決定支援へのパラダイム転換に向けてー」草野芳郎・岡孝編『高齢者支援の新たな枠組みを求めて』白峰社、pp255-278、総頁数 520p、2016 年
17. 田中千枝子「コミュニケーションの基本」『権利擁護支援と法人後見』全国権利擁護支援ネットワーク編、ミネルヴァ書房、pp103-114、総頁数 189p、2015 年 12 月
- 18 佐藤彰一「権利擁護支援の基本」『意思決定支援と権利擁護』『権利擁護支援と法人後見』ミネルヴァ書房、pp3-18・19-36、総頁数 189p、2015 年 12 月
- 19 上田晴男「社会福祉援助技術 I 対象者の理解」『権利擁護支援と法人後見』ミネルヴァ書房、pp77-90、総頁数 189p、2015 年 12 月

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

20. \*福山和女「スーパービジョン」『スクールソーシャルワーク実践技術－認定社会福祉士・認定精神保健福祉士のための実習・演習テキスト』北大路書房,pp187-189,総頁数 353p,2015 年 12 月
- 21.\*野村豊子(日本社会福祉教育学校連盟監修)「序章・第 3 章」『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版,pp3-41・119-156,総頁数 605p,2015 年 5 月
- 22.\*野村豊子(日本社会福祉士会)「スーパービジョンテキスト・特別寄稿」『日本社会福祉士会』pp78-87,総頁数 101p,2015 年 4 月
23. 照井孫久「6 章 3 節 社会福祉法人」「7 章 1 節 高齢者福祉」都築光一編著『福祉ライブラリ 現代の社会福祉』建帛社,総頁数 237p,2015 年 4 月
24. 福山和女「事例分析方法」白澤政和・牧里毎治・宮城孝・福富昌城・岩田正美他編著『相談援助演習(MINERVA 社会福祉養成テキストブック)』ミネルヴァ書房,pp.212-266,総頁数 268p,2015 年 3 月
25. 原田正樹『地域福祉の基盤づくり－推進主体の形成－』中央法規出版,総頁数 244p,2014 年
26. 原田正樹、岩間伸之、岩崎晋也『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣,総頁数 246p,2014 年
27. 田中千枝子「保健医療ソーシャルワーク領域の研究」『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣,pp.141-147 2014 年
28. \*照井孫久「支援者を育てる(スーパービジョン)」日本老年行動科学会監修『高齢者のこころとからだ事典』中央法規出版,総頁数 626p,2014 年
29. 金圓景「韓国の社会福祉館における事例管理:ウォルゲ総合社会福祉館の祖孫世帯事例を中心に」野口定久編『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際;個別援助から地域包括ケアシステムの構築へ』中央法規出版, pp.347-356,総頁数 361p,2014 年
30. 福山和女、小原眞知子監訳『統合的短期型ソーシャルワーク－ISTT の理論と実践』金剛出版,総頁数 296p,2014 年 6 月

### <学会発表>

1. 近田憲久、湯原悦子、高坂朝人「自立準備ホームに入所する少年が抱える困難とサポートの必要性」『日本司法福祉学会第 19 回全国大会』日本福祉大学東海キャンパス,2018 年
2. 大谷京子「ソーシャルワークスーパービジョンスキル指標－個別スーパービジョンにおけるスーパーバイザーのスキル－」『日本社会福祉学会第 66 回秋季大会』金城学院大学,2018 年
3. 小松尾京子「ケースカンファレンスにおけるスーパーバイザー機能に関する研究 2018－グループの活性化に着目して－」『日本社会福祉学会第 66 回秋季大会』金城学院大学,2018 年
4. 大谷京子「ソーシャルワーカーの役割認識と自己規定の変遷－養成課程卒業後 3 年の PSW への経年インタビュー調査－」『日本ソーシャルワーク学会第 35 回大会』川崎医療福祉大学,2018 年
5. 神林ミユキ「スーパーバイザーによるスーパービジョンに関する実践知の共有プロセス－スーパービジョン実践事例を用いた事例検討の逐語分析－」『日本ソーシャルワーク学会第 35 回大会』川崎医療福祉大学,2018 年
6. 小松尾京子「ケースカンファレンスにおけるスーパーバイザーの役割意識に関する研究」『日本ソーシャルワーク学会第 35 回大会』川崎医療福祉大学,2018 年 7 月
7. 二本柳覚「若手実践者のケアマネジメント技術習得に向けた研修会の試行－ビフォーアフター形式の事例検討会の実施－」『日本ケアマネジメント学会第 17 回研究大会』北星学園大学,2018 年
8. 照井孫久、野村豊子、本山潤一郎「主任介護支援専門員におけるスーパービジョン実践の評価モデル構築に向けての調査研究」『日本ケアマネジメント学会第 17 回研究大会』北星学園大学,2018 年 5 月

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

9. 鈴木俊文「介護福祉士養成に求められる「福祉経営」「リーダーシップ」教育の検討ーキャリア形成過程における「経験的要素」の類型化を手がかりにー」『日本介護福祉教育学会』埼玉県,2018年
10. 高坂朝人、湯原悦子「自立準備ホームにおける少年の自立ー支援スタッフによる評価の試みー」『日本更生保護学会第6回大会』コラッセふくしま,2017年12月
11. 大谷京子「精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの認識の変化ー養成課程卒業後2年の「自己規定」と「対象者観」ー」『日本社会福祉学会第65回秋季大会』首都大学東京,2017年10月
12. 鈴木俊文、曾根允、田中千枝子「介護福祉士のキャリア形成プロセスにおける「新人指導」「研修」経験の意味ー能力開発を支える研修・スーパービジョンモデルの開発に向けてー」『日本社会福祉学会第65回秋季大会』首都大学東京,2017年10月
13. 曾根允、鈴木俊文「研修受講効果の促進要因と阻害要因ー福祉施設の研修担当者会議の結果分析からー」『日本社会福祉学会第65回秋季大会』首都大学東京,2017年10月
14. 山口みほ「スーパーバイザー研修修了者はスーパービジョンについてどう考え、何をしているかーアンケート調査自由記述の質的分析ー」『第65回日本社会福祉学会秋季大会』首都大学東京,2017年
15. 二本柳寛「大学におけるケアマネジメント技術教育の効果に関する研究ー受講者と非受講者の比較検討からー」日本社会福祉教育学会第13回大会,龍谷大学短期大学部,2017年
16. 高坂朝人、湯原悦子、近田憲久、渋谷幸靖、竹尾幸宣「少年の再非行をどのように防ぐのかー元非行少年を交えた市民団体の実践から考える」『日本司法福祉学会第18回全国大会』國學院大学,2017年
17. 本間萌「認知症予防普及・啓発リーダー養成講座」受講者の受講動機に関する検討」『第18回日本認知症ケア学会大会』沖縄県宜野湾市,2017年
18. 野村豊子「認定社会福祉士制度におけるスーパービジョン」『第24回日本社会福祉士全国大会』,松山市,2016年
19. 野村豊子「認知症ケアにおけるスーパービジョン」『第17回日本認知症ケア学会大会』,神戸市,2016年
20. 金圓景「地域における要介護者の家族支援デリバリシステムの現状と課題:老々介護世帯Aさんの事例を中心に」『第17回日本認知症ケア学会大会』,神戸市,2016年
21. 野尻紀恵、川島ゆり子「子どもの育ちを支えるソーシャルワーカーの学びあいプロセス(1)ーCSWからとらえるSSWとの連携プロセス視覚化の試みー」『日本福祉教育・ボランティア学習学会第21回やまぐち大会』,山口市(山口県立大学),2015年
22. 野尻紀恵、川島ゆり子「子どもの育ちを支えるソーシャルワーカーの学びあいプロセス(2)ーSSWとCSWの学び合いによる連携プロセス明確化の試みー」『日本福祉教育・ボランティア学習学会第21回やまぐち大会』,山口市(山口県立大学),2015年11月15日
23. 小松尾京子、神林ミュキ、山口みほ、大谷京子「スーパービジョンにおけるスーパーバイザースキルの明確化の試みースーパービジョン・セッションにおける逐語記録の分析から」『日本社会福祉学会第63回秋季大会』,久留米市(久留米大学),2015年9月20日
24. 金圓景「「介護」から「ケア」へ:認知症者への「ケア」概念の検討」『日本社会福祉学会第63回秋季大会』,久留米市(久留米大学),2015年9月
25. 小松尾京子「スーパーバイザーとしての成長に関する取り組みー主任介護支援専門員へのグループスーパービジョンを題材にー」『第23回日本社会福祉士会全国大会』金沢市,2015年7月5日
26. 平野隆之「コミュニティ再生と地域包括ケアシステムー地域福祉にとってのPUSHとPULL」『日本地域福祉学会第29回全国大会(招待講演)』仙台市(東北福祉大学),2015年6月20日
27. 野尻紀恵、川島ゆり子「地域を基盤とした福祉と教育の連携の可能性」『日本地域福祉学会第29



|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

|   |
|---|
| <p>回全国大会』,仙台市(東北福祉大学),2015年6月21日</p> <p>28. 平野隆之「社会福祉をとらえる総合化の論点」『日本社会福祉学会第63回春季大会(招待講演)』,東京都千代田区(法政大学),2015年5月31日</p> <p>29. 引野好裕、<u>汲田千賀子</u>「ユニットリーダーが職員から受ける相談とその応答に関する実態調査」『第16回日本認知症ケア学会大会』,札幌市,2015年5月</p> <p>30. <u>浅野正嗣</u>、<u>山口みほ</u>「保健・医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状と課題(1)ースーパーバイザーが扱う内容とその困難」『日本社会福祉学会第62回秋季大会』,東京都新宿区(早稲田大学),2014年11月30日</p> <p>31. <u>山口みほ</u>、<u>浅野正嗣</u>「保健・医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状と課題(2)ースーパーバイザーに認識されたスーパービジョンの内容と成果」『日本社会福祉学会第62回秋季大会』,東京都新宿区(早稲田大学),2014年11月30日</p> <p>32. <u>大谷京子</u>、<u>田中和彦</u>、<u>寺澤法弘</u>、<u>吉田みゆき</u>「アセスメントプロセスに活用するスキルの検討-クライアントの主観に焦点を絞って-」『日本社会福祉学会第62回大会』,東京都新宿区(早稲田大学),2014年11月30日</p> <p>33. <u>小松尾京子</u>「実習指導者による実習スーパービジョンの課題-社会福祉士実習指導者講習会受講者の調査から-」『日本社会福祉教育学会』鹿児島県霧島市,2014年8月</p> <p>34. <u>金圓景</u>「異なる視点から寄り添うことで繋がる支援:認知症の人と家族」『日本家族看護学会第21回大会』,岡山市,2014年8月</p> <p>35. <u>小松尾京子</u>「成長を促す「スーパーバイザー体験」のための具体的方法論の模索-主任介護支援専門員とのグループスーパービジョンを題材に-」『第22回日本社会福祉士会全国大会』,鹿児島市,2014年7月</p> <p>36. <u>福山和女</u>「超高齢化社会と家族支援」『家族研究・家族療法学会第31回大会』,神戸市,2014年</p> <p>37. <u>大谷京子</u>、<u>田中和彦</u>「ソーシャルワークアセスメントスキル-エキスパート面接ロールプレイからの抽出-」『日本ソーシャルワーク学会第31回大会』,名古屋市(日本福祉大学),2014年6月22日</p> <p>38. <u>野尻紀恵</u>「災害時スクールソーシャルワークと地域の立ち上がり-甚大な水害被害に遭った学校の再開に向けた支援記録の検証-」『日本地域福祉学会第28回大会』,松江市(島根大学),2014年</p> <p>39. <u>来島修志</u>「介護スタッフに対する回想法指導教育の効果と課題-回想法リーダー自己チェックシートを活用-」『第15回日本認知症ケア学会大会』,東京都千代田区,2014年6月</p> |
|---|

### <研究成果の公開状況>(上記以外)

#### シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

##### <既に実施しているもの>

1. 開設記念フォーラム・出版記念セミナー・スーパービジョン研究全体会の開催
  - 1)「日本福祉大学 スーパービジョン研究センター・開設記念フォーラム」の開催  
「重層的スーパービジョンのシステム構築をめざして」  
 <基調報告> 「スーパービジョン研究センターの研究方向とねらい」  
田中 千枝子センター長(日本福祉大学 社会福祉学部 教授)  
 <シンポジウム> 「スーパービジョンの重層的な研究プロジェクトの進め方」  
 概念・研究枠組 田中 千枝子(社会福祉学部 教授)  
 ソーシャルワーク 大谷 京子(社会福祉学部 准教授)  
 ソーシャルケア 野村 豊子(社会福祉学部 教授)  
 権利擁護支援 湯原 悦子(社会福祉学部 准教授)  
 法人マネジメント 山内 哲也(大学院 実務家教員)  
 コーディネーター 平野 隆之(社会福祉学部 教授)

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

<対談> 「スーパービジョン研究センターに期待するもの」

福山 和女 (スーパービジョン研究センター 顧問)

平野 隆之 (日本福祉大学 社会福祉学部 教授)

実施日時:2014年4月20日(日)・場所:日本福祉大学名古屋キャンパス

2) 『『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』翻訳出版記念セミナー』の開催

<基調講演> 「カデュエシンのスーパービジョンを訳して」

福山 和女 (スーパービジョン研究センター 顧問)

<報告> 「カデュエシンのスーパービジョン 3機能を中心に」

管理運営的機能 田中 千枝子 (社会福祉学部 教授)

教育的機能 大谷 京子 (社会福祉学部 准教授)

支持的機能 山口 みほ (社会福祉学部 教授)

<演習> 「カデュエシンのスーパービジョンを体験する」

福山 和女 (スーパービジョン研究センター 顧問)

実施日時:2017年3月26日(日)・場所:日本福祉大学名古屋キャンパス

3) 「研究成果報告セミナー～スーパービジョン研究センターの5年の成果を振り返る～」の開催

<開会挨拶・研究概要説明> 田中千枝子センター長 (日本福祉大学 社会福祉学部 教授)

<各班研究成果報告>

田中千枝子 (社会福祉学部 教授)

大谷 京子 (社会福祉学部 教授)

野村 豊子 (スーパービジョン研究センター 研究フェロー)

湯原 悦子 (社会福祉学部 教授)

<ワークショップ> スーパースーパービジョン実践

福山 和女 (スーパービジョン研究センター 顧問)

野村 豊子 (スーパービジョン研究センター 研究フェロー)

4) 第18回認知症ケア学会 自主企画シンポジウム

「認知症ケアにおける複層的スーパービジョンの必要性;スーパーバイザーを支援する取り組みを通して」

汲田千賀子 (同朋大学)

野村 豊子 (スーパービジョン研究センター 研究フェロー)

西村 優子 (地域包括ケア人材・開発研究センター)

引野 好裕 (特別養護老人ホーム高槻けやきの郷)

神谷 真理 (グループホームさち)

5) 第19回認知症ケア学会 自主企画シンポジウム

「認知症ケアにおけるスーパーバイザーの立ち位置とジレンマ」

汲田千賀子 (同朋大学/日本福祉大学スーパービジョン研究センター)

野村 豊子 (スーパービジョン研究センター 研究フェロー)

神谷 真理 (さちコーポレーション)

西村 優子 (社会福祉法人グループブリガール)

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

福井 梨恵(五領・上牧地域包括支援センター)  
城山いづみ(アサヒケアサービス株式会社)

6)「スーパービジョン研究全体会」の開催経緯

- ①スーパービジョン研究 4 月全体会 : 2014 年 4 月 2 日
- ②スーパービジョン研究 5 月全体会 : 2014 年 5 月 17 日
- ③スーパービジョン研究 6 月全体会 : 2014 年 6 月 12 日
- ④スーパービジョン研究 7 月全体会 : 2014 年 7 月 3 日
- ⑤スーパービジョン研究 11 月全体会 : 2014 年 11 月 27 日
- ⑥スーパービジョン研究 1 月全体会 : 2015 年 1 月 16 日
- ⑦スーパービジョン研究 4 月全体会 : 2015 年 4 月 16 日
- ⑧スーパービジョン研究 7 月全体会 : 2015 年 7 月 2 日
- ⑨スーパービジョン研究 9 月全体会 : 2015 年 9 月 17 日
- ⑩スーパービジョン研究 11 月全体会 : 2015 年 11 月 13 日
- ⑪スーパービジョン研究 2 月全体会 : 2016 年 2 月 10 日
- ⑫スーパービジョン研究 4 月全体会 : 2016 年 4 月 28 日
- ⑬スーパービジョン研究 9 月全体会 : 2016 年 9 月 29 日
- ⑭スーパービジョン研究 11 月全体会 : 2016 年 11 月 9 日
- ⑮スーパービジョン研究 12 月全体会 : 2016 年 12 月 14 日
- ⑯スーパービジョン研究 1 月全体会 : 2016 年 1 月 27 日
- ⑰スーパービジョン研究 5 月全体会 : 2017 年 5 月 11 日
- ⑱スーパービジョン研究 6 月全体会 : 2017 年 6 月 29 日
- ⑲スーパービジョン研究 9 月全体会 : 2017 年 9 月 14 日
- ⑳スーパービジョン研究 10 月全体会 : 2017 年 10 月 19 日
- ㉑スーパービジョン研究 12 月全体会 : 2017 年 12 月 21 日
- ㉒スーパービジョン研究 3 月全体会 : 2018 年 3 月 2 日
- ㉓スーパービジョン研究 4 月全体会 : 2018 年 4 月 26 日
- ㉔スーパービジョン研究 6 月全体会 : 2018 年 6 月 21 日
- ㉕スーパービジョン研究 8 月全体会 : 2018 年 8 月 8 日
- ㉖スーパービジョン研究 9 月全体会 : 2018 年 9 月 27 日
- ㉗スーパービジョン研究 12 月全体会 : 2018 年 12 月 21 日

※スーパービジョン研究センターのホームページは次の URL

: <http://www.n-fukushi.ac.jp/research/supervision/>

<これから実施する予定のもの>

日本福祉大学スーパービジョン研究センター主催(文部科学省科学研究補助金事業基盤B)

英国におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状・課題

中国におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状・課題

日本福祉大学スーパービジョン研究センター研究報告会とスーパービジョン演習

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

## 14 その他の研究成果等

### 1. 講演活動

- 1) 山口みほ、野田智子 「第 10 回日本福祉大学夏季大学院公開ゼミナール」  
『体験的に学ぶスーパービジョン』  
2014 年 7 月 27 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)
- 2) 福山和女、田中千枝子 「第 11 回日本福祉大学夏季大学院公開ゼミナール」  
『FKスーパービジョンー家族システム論による事例解析ー』  
2015 年 7 月 26 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)

### 2. DVD教材の作成

#### 1)～2) スーパービジョン機能発揮のうち、理論的枠組み学習目的

- 1)制作統括:山口みほ 監修・シナリオ協力・キャスト 愛知県医療ソーシャルワーカー協会  
(講師):田中千枝子

タイトル:中堅・ベテランMSWのための『面接技術』I～自らの実践と後進指導の向上を目指して～

- ・使用研修会名:愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2014 年度専門研修②
- ・制作:愛知県医療ソーシャルワーカー協会・日本福祉大学スーパービジョン研究センター
- ・制作年月:2014 年 11 月

- 2)制作統括:山口みほ 監修・シナリオ協力・キャスト 愛知県医療ソーシャルワーカー協会  
(講師):田中千枝子

タイトル:中堅・ベテランMSWのための『面接技術』II～ソリューション・フォーカス・アプローチ(SFA)を用いた意思決支援のための面接～

- ・使用研修会名:愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2015 年度専門研修②
- ・制作:愛知県医療ソーシャルワーカー協会・日本福祉大学スーパービジョン研究センター
- ・制作年月:2016 年 1 月

#### 3)スーパービジョン機能発揮のうち、模擬演習学習目的

- 3)制作統括:山口みほ 監修・シナリオ協力・キャスト 尾張スーパービジョン研究会

タイトル:ソーシャルワーカーのスーパービジョン模擬セッション

- ・使用研修会名:尾張スーパービジョン研究会・その他全国スーパービジョン研修会
- ・制作年月:2019 年 3 月

#### 4)スーパービジョン機能のうち、リフレクティブインタビューで構成する研究手法の獲得目的

- 4)制作統括:田中千枝子 監修・シナリオ協力 質的研究会

タイトル:第 1 巻 社会福祉研究としての質的研究 (講師)田中千枝子

第 2 巻 質的研究とは (講師)山内哲也

第 3 巻 質的研究の進め方 (講師)鈴木俊文

第 4 巻 M-GTAを用いた研究事例の紹介 (講師)塩満卓

- ・使用研修会名:日本福祉大学大学院質的研修会
- ・制作年月日:2019 年 2 月

### 3. 講義

- 1) 田中千枝子「日本福祉大学大学院公開講義:私の研究テーマと研究法」  
『スーパービジョンの倫理的側面を考える』  
2015 年 7 月 6 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)

### 4. 研修会

- 1) 田中千枝子「愛知県医療ソーシャルワーカー協会専門研修」

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

|   |   |
|---|---|
| (スーパービジョン研究センター共催)  |   |
| 『中堅・ベテラン MSW のための「面接技術 I」<br>～自らの実践と後進指導の向上を目指して～』  |   |
| 2014 年 12 月 13 日(愛知県産業労働センターウインクあいち:愛知県名古屋市)  |   |
| 2015 年 8 月 2 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)  |   |
| 『中堅ベテランMSWのための「面接技術 II」』  |   |
| 2015 年 9 月 27 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)   |   |
| 2016 年 6 月 26 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)   |   |
| 2017 年 12 月 10 日(愛知県産業労働センターウインクあいち:愛知県名古屋市)  |   |
| 2019 年 10 月 22 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)  |   |
| 2) <u>田中千枝子</u> 「岡山市南地区自立支援協議会におけるスーパービジョン運営と事例スーパービジョンの学習会」指導  | 2015 年 1 月・2 月 3 月・5 月・6 月・9 月・10 月・11 月の第 3 金曜日に実施   |
| 3) <u>山口みほ</u> 、 <u>野田智子</u> 「日本社会福祉士会基礎研修Ⅲ」<br>『スーパービジョン』  | 2015 年 1 月 11 日(愛知県)  |
| 4) <u>山口みほ</u> 「日本医療社会福祉協会医療ソーシャルワーカー基礎研修Ⅱ」<br>『ソーシャルワーカーのためのスーパービジョン』  | 2015 年 3 月 22 日(兵庫県)  |
| 5) <u>田中千枝子</u> 「ケア会議をスーパービジョンとして実施する研修会」   |   |
| 「ケア会議の本質」   | 2015 年 1 月(岡山市)   |
| 「ケア会議をスーパービジョンとして実施」  | 2015 年 2 月(岡山市)   |
| 「ケア会議で元気になる」  | 2015 年 3 月(宮崎市)   |
| 「ケア会議をスーパービジョンとして実施」  | 2015 年 3 月(大分市)   |
| 「ケア会議をスーパービジョンとして実施」  | 2015 年 10 月(富山市)  |
| 「ケア会議をスーパービジョンとして実施」  | 2015 年 10 月(福岡市)  |
| 「スーパービジョン研修」  | 2016 年 2 月(大分市)   |
| 6) <u>大谷京子</u> 「PSW 版スーパービジョン研究会」   | 2015 年 4 月～現在(毎月開催)(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)   |
| 7) <u>山口みほ</u> 「愛知県医療ソーシャルワーカー協会専門研修」(スーパービジョン研究センター共催)<br>「中堅・ベテラン MSW のための『面接技術 II』～ソリューション・フォーカス・アプローチ(SFA)を用いた意思決支援のための面接～」 | 2015 年 1 月 31 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)<br>2016 年 8 月 28 日(日本福祉大学名古屋キャンパス:愛知県名古屋市)<br>2017 年 1 月 28 日(愛知県産業労働センターウインクあいち:愛知県名古屋市) |
| 8) <u>山口みほ</u> 、 <u>小松尾京子</u> 「日本社会福祉士会基礎研修Ⅲ」<br>『スーパービジョン』   | 2016 年 1 月 17 日(愛知県)  |
| 9) <u>山口みほ</u> 「日本医療社会福祉協会医療ソーシャルワーカー基礎研修Ⅱ」<br>『ソーシャルワーカーのためのスーパービジョン』  |   |

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

2016年3月21日(大阪府)

- 10) 山口みほ「一般社団法人愛知県医療ソーシャルワーカー協会 専門研修③」  
『スーパービジョン・スターターのためのスーパービジョン研修』  
2017年12月9日(日)(愛知県産業労働センターウインクあいち:名古屋市)
- 11) 山口みほ「平成29年度中堅職員研修③「スーパービジョン研修」」  
2018年2月13、14、20日(名古屋市社会福祉協議会社会福祉研修センター:名古屋市)
- 12) 山口みほ、小松尾京子「日本社会福祉士会基礎研修Ⅲスーパービジョン」  
『スーパービジョン』  
2016年1月17日(愛知県)
- 13) 小松尾京子「三重県主任介護支援専門員更新研修」  
『スーパービジョン』  
2016年5月～8月、2018年6～7月(三重県)
- 14) 小松尾京子「三重県介護支援専門員協会津支部研修会」  
『スーパービジョン』  
2016年9月16日(三重県)
- 15) 小松尾京子「認定社会福祉士認証・認定機構 更新スーパービジョン」  
『認定社会福祉士へのスーパービジョン』  
2017年2月25日、26日(大阪府)

|          |          |
|----------|----------|
| 法人番号     | 231017   |
| プロジェクト番号 | S1491012 |

## 15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

### <「選定時」に付された留意事項>

研究全体に対して翻訳事業の位置づけがわかりにくい、テーマに対して明確さを欠いているとの指摘があった。

### <「選定時」に付された留意事項への対応>

日本の福祉・介護現場での支援人材養成に生じている新たな事態に対応するため、翻訳作業をセンターの研究事業の柱としたことで、Kadushin のSVを大学内外のメンバー間で学びあい、新たなSVの再定義や再理論化に向かう研究を組んでいく姿勢をより明確化した。2ヶ月に1回開催してきた研究センター全体会では、翻訳事業の報告と内容検討、各領域グループ研究企画と研究報告を並行的に行なってきた。その結果 Kadushin のシステム論に基づくSV理論を勉強しながら、各グループの研究成果にそれを反映させることができた。研究の中間総括として出版した『福祉・介護の支援人材養成・開発論』には、翻訳と領域研究の成果をもとに、日本のヒューマンケアにおける新たなSV理論への提言を組み入れることができた。

またテーマにある重層性については、直接の支援者支援に関わるマイクロ研究とSV体制整備のメゾ研究をカデューシ理論をもとに、新しいSVの定義と理論化に向かう中核をなす研究として見せたことで、より総合的普遍的な研究としてとらえることができる厚みのある研究実績を築いてきている。

### <「中間評価時」に付された留意事項>

なし

### <「中間評価時」に付された留意事項への対応>

非該当